



NEWS LETTER

発行：水資源・環境学会

NEWS LETTER No.40

2005年7月15日

2005年度 夏季現地研究会 地下からの水の恵みを探る - 西伊豆をフィールドとして -

2005年度の夏季現地研究会は「地下からの水の恵みを探る」（ニューズレターNo.39参照）をテーマに、8月6日（土）～7日（日）の2日間、下記のスケジュールで、伊豆半島でも自然らしさと人の素朴さが満喫できる西伊豆地方の水を探訪します。

宿泊に余裕がありますので、参加希望者は担当者までお知らせください。（当初予定の公営宿泊所は、抽選の結果、選外となり、新たに民宿となりました）

目次：

.....	
2005年度 夏季現地研究会ご案内	1
2005年度 冬季研究会ご案内	2
水資源・環境学会 下呂市 共催 シンポジウム 報告	3
2005年度 総会の概要	5
学会誌寄贈 大学図書館	7
新規加入会員案内 事務局からのお知らせ	8

【スケジュール】 2005年8月6日（土）～7日（日）

- 6日（土）11:00 「JR三島駅」在来線改札口前 現地集合
 （昼食） 「水泉園」（電話：055-972-1097）
 （移動） 菰池公園（三島市）、柿田川湧水群、泉の館（清水町）
 狩野川放水路と資料館（伊豆長岡町）、神池（沼津市）
 御浜岬（戸田町）、土肥金山（土肥町）
 （宿泊） 「温泉民宿 浩美屋」
 [松崎町石部 電話・FAX：0558-45-0203]
- 7日（日）午前 旧天城トンネル、天城峠、静岡県農業試験場わさび分場（河津町）
 （昼食） 「昭和の森会館」（伊豆湯ヶ島町）
 午後 修善寺温泉（修善寺町）、葦山反射炉（葦山町）
 16:00 JR三島駅前 現地解散

【交通】 JR新幹線

新大阪	京都	名古屋	三島
7:30	7:46	8:23（のぞみ40号）	
7:43	8:00	8:55（ひかり402号）	
7:53	8:09	8:45（のぞみ42号）	
		8:33	10:24（こだま566号）
		9:01	10:57（こだま568号）

2005年度夏季現地研究会ご案内つづき

【費用】

¥15,000.- (宿泊費1泊2食、レンタカー・ガソリン代)
レンタカー代等各種費用は、参加者の人数割で徴収させていただきますので、費用の変動をお含みください。

【申込締切】

2005年7月30日(土)【延長しました!】
ただし、定員(15名)になり次第、締め切らせていただきます。

【お問合せ・申込先】

企画担当：若井 郁次郎(大阪産業大学 人間環境学部 都市環境学科)
電話：072-875-3001(代表)内線7754
FAX：072-871-1259
E-mail：wakai@due.osaka-sandai.ac.jp

2005年度冬季研究会のご案内
水資源原論の再考
- 水法から考える - 第一報!

今年度の冬季研究会は「水資源原論の再考 - 水法から考える -」をテーマに再び冬の京都で開きます。今回は、水資源の原点に立ち返り議論を深める企画としています。そして談論した後、京都の豊富な地下水を利用して今も長い歴史と歩んでいる地場産業を訪ねてみたいと思います。

古来、人類は、水の循環過程における地表水や地下水を農業、産業、生活、余暇など多目的かつ高度に利用してきました。この人と水との関係は、未来永劫ですが、その水が世界で、地域で偏在し不足し始めている一方、地表水や目に見えない地下水の利用が急増しつつあります。具体的には、水戦争といわれるように国際河川や湖沼における水の争奪・枯渇や企業による地下水等の大量使用による水ビジネス産業の成長が世界各地で広がっております。国内に目と転じますと、飲料水の輸入急増や大型商業店舗などによる地下水の大量汲み上げなどが見られます。

ここでは、地表水(流水、静止水、湧水)及び地下水を取り上げ、公水と私水、水の所有関係などについて広角的に論じるときにあると考えます。

開催日は、2006年3月上旬の土・日曜日を予定しています。現在、水法や水政策の新しい視点から豊かな議論ができるよう、企画準備をしています。次号のニューズレターで枠組みをお知らせいたしますので、多数の参加をお待ちしています。

水資源 環境学会、下呂市共催

豊かな森と水を活かす地域づくりシンポジウム 報告

高橋 卓也 (滋賀県立大学)

岐阜県下呂市は、2004年に旧益田郡の荻原町、小坂町、下呂町、金山町、馬瀬村の5町村が合併して誕生した。面積は851 km²、そのうち91%を森林が占める。市の中央部を飛騨川が流れ、西部を馬瀬川が流れている。人口は2000年で約4万人である。

岐阜県下呂市では、内陸部での溪流魚つき保全林という全国でもまれな取組みが展開している。森林法に基づく「魚つき保安林」制度は、海岸部に適用されることがほとんどであるのに対し、ここでは内陸の溪流沿いに適用されている。また、「魚つき保安林」は国の法律にのっとった規制であるのに対して、下呂市の魚つき保全林は、地方自治体（旧・馬瀬村）が地域創りを目指して、個人、県、国有林などと協力関係を構築したものである。溪流魚つき保全林のほかにも下呂市では、森と水を題材としたさまざまな地域創りの動きが見られる。それらの動きに新たな方向を見出すため、本シンポジウムは水資源・環境学会と下呂市との共催で開催された。以下、シンポジウムの内容を時系列に沿って報告する。

[6月3日・第1日目]

第1部

豊かな森と水を活かす地域づくりワークショップ

山田良司氏（下呂市長）と仁連孝昭氏（学会事務局長；滋賀県立大学）からの挨拶によってワークショップは開幕した。参加者は、下呂市のNPO、産業界関係者、市役所担当者、県の森林担当者、国有林担当者、そして水資源・環境学会員の合計約40名である。小池永司氏（下呂市・元収入役）から下呂市の旧・馬瀬村での川を中心とした村の活性化についての説明をいただいた。ふるさと創生基金を利用して作った温泉が功を奏し、それ以前は5万人程度の釣り客が35万人へと急増した。結果、山菜採取、釣りのマナーについて問題が発生するようになった。平成6年から村づくりの研究会がスタートした。同年から森林と川と人間の深いつながりに着目した6つのプロジェクト（エコリバーシステム活性化プロジェクト）が立ち上げられている。合併の1年前には馬瀬地方自然公園園作り宣言が出され、現在は協議会作りの段階に入っている。

そのあと、ワークショップにふさわしく多彩な意

見・問いかけが出された。ワークショップのために用意された4つの課題によって羅列的ではあるが整理を試みたい。

1. 新下呂市における地域づくりの課題を明らかにする。

タイトルにある森林、河川の管理のありようについてとくに多くの課題があげられた。具体的には、人工林での間伐の遅れ、森林の目指すべき将来像、河川の水位調整（漁業とダムとの水位調整との関係）、生活排水・農業排水についての問題点があげられた。農林業の経営困難もそれらの背景として重要である。

2. 地域づくりにとってどのような資源があるか？

保水性の高い火山岩によってきれいな水質が維持されている。カラマツの林も新鮮な目でみると「海の色」が発見できる。桜が水田の水面に映るのも感動させられる。下呂市の標高差は大きく、植生が多種多様である。紀元前1000年から500年に作られた巨石遺構も観光資源として活用できるのではないかな。

3. 地域資源をつないでどのようなアクションが可能か？

5,000 km²という広大な木曾川上流域のうち6分の1が新・下呂市となっている、この力を使えば圧力団体になれるのではないかな。現状の若齢人工林が主体の森林を高齢林または広葉樹主体のものへと転換しなくては水環境の保全ができないのではないかな。上流下流を結ぶ環境教育が可能では。

4. 内陸型国内唯一の「溪流魚つき保全林」のあり方？

魚つき保全林については、従来の国の制度「保安林」との違いが明らかにされた。つまり、所有者の行動に規制をかけるものでなく、自発的協力を求める枠組みとして地方自治体独自の「魚つき保全林」という形態が選ばれた、ということである。そのきっかけとしては、地元での従来の慣行からというよりも、外部からの釣り客の森林に対する高い評価によるものであった。

このワークショップは、参加者間で、下呂市の地

域資源とそこから生まれる行動の可能性が共有がなされる端緒となったのではないだろうか。

[6月4日・第2日目]

第2部

地域を再発見するエクスカージョン

学会からの参加者15名の多くは地域になじみが少ないため、地域づくりの資源を実地見学する機会を第2日目の午前用意していただいた。

まず、小川字高洞の棚田である。明治年間から営々と谷底から石を運び上げて作り上げた約3haの棚田群はこれまでとくに注目されずに農業が営まれてきた。下呂の温泉郷を見下ろす棚田には独特の雰囲気があるように思えた。つぎに治水の歴史的建造物・霞堤を見学した。そして、南ひだウッド協同組合を見学。廃材を利用した木材乾燥施設、コンピュータ制御のプレカット施設が印象的であった。荻原町四美の南飛騨健康保養地に向かう。同地では「癒しの森」をコンセプトとして元の民家も利用した保養基地を形成中である。最後に馬瀬地区の魚つき保全林を見学した。下呂市の中心部から山を越えた別の谷に馬瀬地区はある。途上、間伐の行き届いた人工林が印象的であった。来年下呂市で開催される全国植樹祭にあわせて道際を間伐しているとのこと。点在する馬瀬の集落を縫う幹線道路を離れ、林道を10分ほど上ったところで駐車、黒石水源のもり地区の砂防ダムを見下ろす地点で国有林の方々より魚つき林の管理方針につき説明を受ける。雨模様であったが、緑の淵を広葉樹が覆っていて爽快であった。シンポジウム会場（ホテル美輝）へ向かうバスからは、生物多様性、溪畔森林の保全を目的とした治山モデル事業（岐阜県実施）の現場（馬瀬地区葛谷流域）を遠望することもできた。

短時間にもかかわらず行き届いた計画のおかげで、下呂市の森と水の重要なポイントを実見したうえで、第3部のシンポジウムに臨むことができた。

第3部

豊かな森と水を活かす地域づくりシンポジウム

参加者は、下呂市民（多くは馬瀬地区の住民）、行政関係者、当学会員、あわせて約80名である。市長代理と菅原正孝学会長（大阪産業大学）からの挨拶の後、千頭聡氏（学会員；日本福祉大学）の基調講演「森と川そして暮らしはつながっている」をうかがった。まずは、身近な例をあげつつどこに問題点があるのかを指摘された。都市住民と川とはつながっていない。都市住民と山とはつながっていない。そこでどうすればよいのか。キーワードは「循環」である。ヒントとして、映像での地域の文化の記録、ヨソモノの視点の導入などを紹介された。最

後に千頭氏の馬瀬地区への思い入れの発端として木馬（木橋）による木材搬出の話題が紹介され、木馬についてのワークショップを開催してはとの提案をされた。

基調講演に引き続き、パネルディスカッションでは仁連事務局長のコーディネートで各パネラーからの地域づくりへの示唆、提案がなされた。パネラーごとに発言内容を紹介する。

井口貢氏（京都橘大学）

観光文化政策の視点からの提言。観光は一人十色であり、ホンモノへのこだわりが必要、ヒトが主役の交流産業である。好例が愛媛県内子町にある。内発的開発、コミュニティービジネスが実践されている。（詳しくは氏の著書をご参照下さい。）

平部恵子氏（劇団ふるさときゃらばん）

取材をもとにしたミュージカルを続けて22年目になる。これまで、農家、サラリーマン、環境を描いてきた。なぜ農家を描くのか。それはそこに愛と自然があるからだ。

永井博記氏（アジア協会アジア友の会）

水にかかわる井戸を海外に援助している。水の根源として森に目を向け、植林にも国内外で取り組んでいる。災害を受けたバンダアチェに新しい村を作ろうとしているところである。是非応援してほしい。

小池永司氏（下呂市・元収入役）

平成6年から森と川をテーマとした村づくりをしてきた。魚つき保全林については5年かかって実現ができた。人間は美しさには感銘を受ける、との考えのもと、山村景観の改善に取り組んでいる。馬瀬十景を指定し、道路沿いの森林を間伐し、ガードレールを自然に馴染む色へ塗り替え、村内の看板のデザインを刷新した。

千頭聡氏

沖繩の東村では「自分たちで自分たちの村について語れる」ということを大事にしている。人に伝えることから第3次産業が生まれ、お嫁さんも来るようになる。

会場との質疑応答では大学の教員へ「いつ学生たちと来てくれるのか」との問いかけもあり、今後の交流への足がかりができたようであった。

短期間ではあったが、下呂市の魅力的な森林、水、人について学ぶことができた。ご尽力賜った地元の方々、そして今回のシンポジウム開催の原動力となった川合千代子会員に深く謝意を表したい。

水資源・環境学会 2005年度総会の概要

去る2005年6月5日に開催された大会とあわせて、学会総会がもたれました。総会では以下の議案が審議され、議決されました。

第1号議案 2004年度事業報告

2004年度の事業として以下の報告がありました。

- (1) 研究事業
 - ・研究大会(2004.6.5)「水循環と自然再生」
 - ・夏季研究会(2004.8.6~7)
「長良川が育てた町 郡上八幡・美濃・岐阜」
 - ・冬季研究会(2004.3.5~6)
「琵琶湖疏水の今 京都の水利用を考える」
- (2) 学会誌事業
「水資源・環境研究」第17巻の発行
- (3) 広報事業
 - ・ニューズレター(7月、1月、3月)の発行
 - ・ホームページの運営

第2号議案 2005年度事業計画

2005年度の事業計画として、3種類の研究事業と学会誌の発行、広報事業およびその他事業として下呂市共催シンポジウムが提案され、了承されました。

- (1) 研究事業
 - ・研究大会(2005.6.5)「水と環境教育」
 - ・夏季研究会(2005.8.6~7)
「地下からの水の恵みを探る 西伊豆をフィールドとして」
 - ・冬季研究会 詳細未定
- (2) 学会誌事業
「水資源・環境研究」第18巻の発行
- (3) 広報事業
 - ・ニューズレターの発行(3回)
 - ・ホームページの改善・充実
- (4) その他事業
 - ・下呂市共催シンポジウム(2005.6.3~4)
「豊かな森と水を活かす地域づくり」

第3号議案 2004年度決算報告

2004年度会計報告がなされ、富岡昌雄、花田眞理子監事よりの監査報告が代読され、了承されました。(次ページ【表1】参照)

第4号議案 2005年度予算案

今年度の予算案は事業別予算として提案され、了承されました。(次ページ【表2】参照)

第5号議案 規約改正

役員選任について第7条の規約を下記の通り変更する旨の説明がなされ、質疑応答ののち挙手による採決を行い、全員一致で承認可決されました。

旧	新
7.本会に、 <u>理事、評議員、各若干名を置く。</u>	7.本会に、 <u>理事、監事、顧問を置く。</u>
7(3)評議員は、評議員会を組織し、理事会の諮問に応じて助言する。	削除
7(4)理事会は、 <u>会長、監事、および事務局長を選任する。その任期は2年とする。</u>	7(3)理事会は、 <u>会長、事務局長およびその他必要な委員を選任する。その任期は1年とする。</u>
7(5)必要に応じ、顧問若干名を置くことができる。	削除

第6号議案 2004年度役員候補案

2005年度の役員として、理事、顧問、監事に以下の会員が選出されました。

理事

秋山 道雄	滋賀県立大学
足立 考之	内外エンジニアリング(株)
伊藤 達也	金城学院大学
大橋 浩	(株)地域社会研究所
荻野 芳彦	大阪府立大学
小幡 範雄	立命館大学
國松 孝男	滋賀県立大学
菅原 正孝	大阪産業大学
高橋 卓也	滋賀県立大学
立川 涼	愛媛県環境創造センター
千頭 聡	日本福祉大学
土屋 正春	滋賀県立大学
仲上 健一	立命館アジア太平洋大学
西田 一雄	(株)地域環境システム研究所
仁連 孝昭	滋賀県立大学

(次ページへつづく)

(前ページつづき)

野村 克巳 京都市上下水道局
 花嶋 温子 大阪産業大学
 平井 拓也 エースコンサルタン(株)
 三輪 信哉 大阪学院大学
 盛岡 通 大阪大学
 安本 典夫 立命館大学
 若井 郁次郎 大阪産業大学
 渡辺 紹裕 総合地球環境学研究所

顧問

板橋 郁夫 板橋法律事務所
 河野 通博 岡山大学名誉教授
 末石 富太郎 大阪大学名誉教授
 宮永 昌男 龍谷大学名誉教授
 森滝 健一郎 岡山大学名誉教授

監事

富岡 昌雄 滋賀県立大学
 花田 眞理子 大阪産業大学

【表1】第3号議案 2004年度決算報告

収入

内訳		決算額
繰越金		636,698
会費	会費収入	770,540
学会誌	学会誌販売	50,350
	要旨集販売	3,500
その他	超過原稿料	59,620
収入合計		¥ 1,520,708

支出

内訳		決算額
研究事業	会議費	26,550
	事務費	2,394
学会誌事業	印刷費	0
	通信費	41,519
広報事業	通信費	25,014
	事務費	3,906
事務局経費	会議費	39,940
	通信費	19,882
	事務費	23,095
その他	(研究会御礼等)	44,800
支出合計		¥ 227,100
2005年度へ繰越		¥ 1,293,608

1

17巻印刷代(¥887,880)はH17.4.7に支払いのため決算額¥0

【表2】第4号議案 2005年度予算案

収入

内訳	予算額
会費収入	942,000
繰越金	1,293,608
収入合計	¥ 2,235,608

会費 個人会員(150)	@5,000	750,000
学生会員(14)	@3,000	42,000
法人会員(5)	@30,000	150,000
		942,000

支出

内訳			予算額
研究事業	会議費	会場費	20,000
	事務費	消耗品	5,000
		研究その他	25,000
学会誌事業	印刷費	学会誌印刷	1,637,880
	通信費	郵送料	50,000
広報事業	通信費	郵送料	25,000
	事務費	消耗品	5,000
事務局経費	会議費	会場費	25,000
	通信費	郵送料	20,000
	事務費	消耗品	17,000
合計			¥ 1,829,880

2

2004年度支払済額(¥887,880)と2005年度予算(¥750,000)の2年分で計上

学会誌「水資源 環境研究」寄贈大学図書館

今年度より、以下の大学図書館に学会誌を寄贈することになりました。110の大学図書館に「水資源・環境研究」を寄贈しています。一覧にない大学図書館にも寄贈可能です。ご希望があれば各大学図書館にリクエストして下さい。（図書館から学会事務局宛に連絡をお願いして下さい。）

- * 北海道大学 北方生物圏フィールド
科学センター厚岸臨海実験所
- * 北海道大学 工学研究科
社会工学系専攻(環境工学)図書室
- * 室蘭工業大学 附属図書館
- * 弘前大学 附属図書館
- * 秋田大学 附属図書館
- * 岩手大学
情報メディアセンター図書館
- * 福島大学 附属図書館
- * 群馬大学 附属図書館工学部分館
- * 筑波大学 附属図書館
- * 埼玉大学 図書館
- * 東京農工大学 小金井図書館
- * 千葉大学 附属図書館
- * 富山大学 附属図書館
- * 金沢大学 中央図書館
- * 福井大学 附属図書館
- * 名古屋工業大学 附属図書館
- * 名古屋大学 附属図書館
- * 岐阜大学 図書館
- * 三重大学 附属図書館
- * 滋賀大学 附属図書館教育学部分館
- * 滋賀大学 附属図書館
- * 和歌山大学 附属図書館
- * 京都工芸繊維大学 附属図書館
- * 京都大学 農学部図書室
- * 大阪大学 附属図書館吹田分館
- * 神戸大学 自然科学系図書館
- * 広島大学 図書館東図書館
- * 島根大学 附属図書館
- * 山口大学 図書館
- * 徳島大学 大学院工学研究科
エコシステム工学図書室
- * 香川大学 附属図書館
- * 愛媛大学 附属図書館農学部分館
- * 高知大学 附属図書館農学部分館
- * 九州大学 附属図書館
- * 佐賀大学 附属図書館
- * 長崎大学 附属図書館
- * 宮崎大学 附属図書館
- * 鹿児島大学 附属図書館水産学部分館
- * 琉球大学 附属図書館
- * 岩手県立大学 メディアセンター
- * 宮城大学 総合情報センター
太白キャンパス図書館
- * 高崎経済大学 附属図書館
- * 東京都立大学(首都大学東京)
附属図書館
- * 横浜市立大学 学術情報センター
- * 石川県立大学 図書情報センター
- * 愛知県立大学 附属図書館
- * 名古屋市立大学
総合情報センター山の畑分館
- * 滋賀県立大学 図書情報センター
- * 京都府立大学 附属図書館
- * 大阪市立大学
学術情報総合センター
- * 兵庫県立大学
姫路新在家学術情報館
- * 広島市立大学 附属図書館
- * 高知女子大学 附属図書館
- * 北九州学術研究都市学術情報センター
(北九州市立大学国際環境工学部)
- * 福岡女子大学 附属図書館
- * 熊本県立大学 附属図書館
- * 札幌学院大学 図書館
- * 札幌大学 図書館
- * 東北文化学園大学
総合情報センター図書館
- * 青山学院大学 図書館
- * 大妻女子大学 多摩校図書館
- * 慶應義塾大学
メディアセンター本部
- * 工学院大学 図書館
- * 実践女子大学 図書館
- * 玉川大学 図書館
- * 東海大学 中央図書館
- * 東京経済大学 図書館
- * 東京農業大学 図書館
- * 東洋大学 図書館
- * 法政大学 市ヶ谷図書館
- * 武蔵工業大学 図書館
- * 武蔵野大学 図書館
- * 立正大学 地球環境科学部図書資料室
- * 立正大学 情報メディアセンター
- * 早稲田大学 中央図書館
- * 麻布大学 附属学術情報センター
- * 関東学院大学 図書館本館
- * 東京情報大学
情報サービスセンター
- * 愛知大学 豊橋図書館
- * 愛知みずほ大学 附属図書館
- * 金城学院大学 図書館
- * 椋山女学園大学 図書館
- * 中京大学 豊田図書館
- * 中部大学 附属図書館
- * 南山大学 図書館
- * 人間環境大学 附属図書館
- * 名城大学 附属図書館
- * 帝塚山大学
東生駒キャンパス図書館
- * 奈良大学 図書館
- * 京都女子大学 図書館
- * 京都橘女子大学 図書館
- * 立命館大学 図書館
- * 立命館大学 メディアセンター
- * 龍谷大学 深草図書館
- * 大阪産業大学 総合図書館
- * 関西大学 図書館
- * 近畿大学 中央図書館
- * 関西学院大学 図書館
- * 神戸女学院大学
図書館新館雑誌室
- * 吉備国際大学 附属図書館
- * 広島工業大学 附属図書館
- * 広島国際大学 図書館呉分館
- * 広島修道大学 図書館
- * 福山大学 図書館
- * 高知工科大学 附属情報図書館
- * 九州産業大学 図書館
- * 久留米工業大学 図書館
- * 福岡工業大学 附属図書館
- * 長崎総合科学大学 附属図書館
- * 日本文理大学 図書館

